

発行日	令和4年8月1日
発行元	災害対策課
所属長	課長 森本 仁信
電話	06-6489-6165

防災



令和4年7月号

防災対策情報便

1 台風が発生しやすい時期です ～事前に備えを～

まずは台風の事を知ろう！！

台風とは、熱帯の海上で発生した低気圧(熱帯低気圧)のうち、最大風速(10分間平均)が17.2m/s以上となったものを「台風」と呼びます。

台風の特徴として、①前線や気圧配置等の状況によって、台風から離れた場所でも大雨が発生することがある。②台風の進行方向の右側では、台風本体の風と、台風の周りの風が同じ方向に吹くため、風が強くなる。③夏は太平洋高気圧に覆われ、偏西風が弱いいため、夏の台風は秋と比べて進み方が遅く、複雑な動きをするものが多い、といったものがあります。

台風による災害

✓ 風が直角に吹き込む南～南東の山地では大雨に注意

台風の進行方向右側の地域では、大雨に対するより一層の警戒が必要です。台風による南よりの暖かく湿った強風が、南～南東の斜面に吹き込み、地形によって強制的に空気が上昇する効果が加わるため、雨雲が非常に発達します。このため、激しい雨を降らせることがあります。



✓ 南に開けた湾で高潮に注意

台風の風は反時計回りで、一般に進行方向の右側が強くなっています。そのため、陸地に入り込んだ湾においては、台風が西側を北上した場合に南風が吹き続けて高潮が起こりやすくなります。特に遠浅で、南に開いた湾において、台風が湾の西側を北上した場合に高潮が発生することが多くなっています。また、満潮時刻が重なると一層潮位が高くなるので警戒が必要です。



注目!

- ①雨や風が強くなる前に、家屋の補強などの対策をしましょう。
- ②避難場所までの道順を確認しておきましょう。
- ③日頃からハザードマップで危険箇所や避難場所をチェックしておきましょう。

街中に潜む災害のリスク

険しい山や急流が多い我が国では、大雨によって、川の氾濫や土砂災害が発生しやすく、人々の生命が脅かされるような自然災害が度々発生しています。それぞれの場所に応じて必要な防災気象情報を活用することが重要です。

なお、尼崎市では山がありませんので土砂災害の想定はありません。



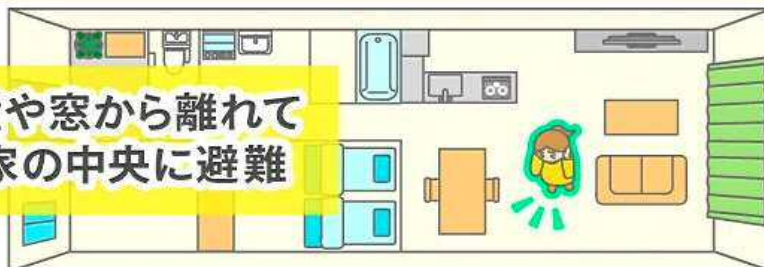
風が強いときは、外出は控える 屋外の作業は避ける

【国土交通省 気象庁ホームページ】

不要不急の外出や
屋外の作業は
避けましょう



壁や窓から離れて
家の中央に避難



注目!

【tenki.jp ホームページ】

- ①カーテンを閉める。窓に飛散フィルムを貼る。
- ②物干し竿は飛ばされないようにしておく。
- ③植木鉢などは、飛ばされないように家の中に入れておく。

2 ひょうご防災リーダー講座の募集が始まります！

日本の防災分野の一流講師陣による講義に加え、特に突発的な自然災害等に備えるため、自主防災組織等の地域コミュニティが主体となって取り組むことが出来る実践的なプログラムを提供します。地区防災計画づくり、避難行動訓練ゲーム、コロナ禍での避難のあり方や避難所設置・運営訓練、地図等(GIS 含む)を活用した各種ワークショップ、普通救命講習等バラエティーに富んだカリキュラムを構成しています。



講義



放水体験

ひょうご防災リーダー講座

検索



定員に達し次第、募集は終了となりますので、お早めに！！



【兵庫県広域防災センターHP】

3 淀川・神崎川及び左門殿川 防潮鉄扉点検操作訓練を実施しました！

洪水、高潮等の来襲に備え、国土交通省近畿地方整備局等の関係 28 機関の協力のもと、淀川、神崎川、左門殿川の防潮鉄扉 17 箇所において防潮扉の開閉に係る点検等のため、防潮鉄扉点検操作訓練を実施しました。

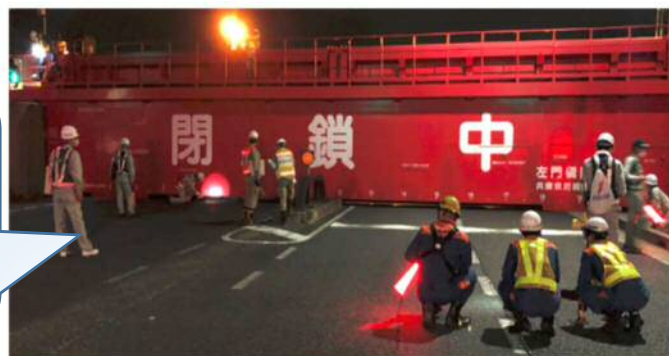


高潮などによる浸水の危険性がある時は、この鉄扉で道路を閉鎖します！

防潮鉄扉点検操作訓練の様子



【閉鎖後の鉄扉】



3 地域の防災 つなぎ隊！！

立花三反田自主防災会の山下さんにお話を伺いました。山下さんは、ご夫婦で地域の防災活動に取り組んでおられ、普段から家庭の中で災害が発生した場合の行動を決めておられたり、地域の外国籍の方にも情報が伝えられるように、小学生とともにピクトグラムや様々な言語の案内板を制作されていました。



また、地域の災害時の人手不足や、介護・介助者の人手不足をどのように確保していくかという課題に行政と取り組んでいきたいと考えてらっしゃいました。

Q 地域の防災活動を行うにあたって意識していることは何ですか。

A ポイントは、「平時におけるコミュニティ作り」です。普段から、地域に住んでおられる近所の方と密にコミュニケーションをとることで、ちょっとした異変も感じ取れるようになりました。そういった普段からの積み重ねが、いざという時に力を発揮し、地域で協力しあえる関係ができると思っています。

Q ご夫婦で地域の防災活動に取り組んでいらっしゃいますが、日頃からご家庭内で災害発生時のタイムスケジュールを決めてらっしゃいますか。

A 発災直後の自分たちの行動を具体的に決めています。実際の災害では、あらゆる事態が想定できるので、予めお互いにこういった役割を担うのかを決めています。

Q 今後、地域における課題や取り組んでいきたいことは何ですか。

A 外国籍の方向けの避難場所における5か国語の案内表示の設置や発災後の避難所での何でも相談窓口のようなものを設置することも考えています。困っている方が、今なにを必要としているか、先んじて察知することが大事なのではないかと考えています。

